



# 運営費は平均で毎年今より1億4千万円の増

12月議会では、新清掃センターの建設・運営・維持管理について、201億円の長期にわたる債務負担行為の提案がありました。大谷市議は、予算の内容や財源、契約について質問しました。

「新施設では、運営費が1億4千万円増えるが、焼却ゴミの受け入れや、ゴミ袋代などの値上げに影響することはないか」と質問。部長は「現時点では、手数料の値上げは考えていない。ゴミ袋も負担増は考えていない」と答弁。



## 市民の負担増の心配は

「約20年間の運営契約の終了後はどうするのか」と質問。部長は「新清掃センターの対応年数は35年間稼働させる施設を新設するよう求めている。契約期間終了後は、同じ業者が運営することが理想と考える」と答弁しました。

## 運営費用の増額の理由は

大谷市議は「新施設の運営費は、現在の清掃センターとの比較でどれだけ増えるのか」と質問。部長は「1億4千万円増える」と述べ、その理由について「新方式（24時間運転→現在は16時間運転）や大気に関する自主基準値、測定分析などが異なるため」と答弁。

## 新施設の従業員の雇用は

新施設の稼働の場合、現在の清掃センターで働いている職員の雇用の確保について市議の考えを質問。部長は「市と建設費に加え運営費について

# 新清掃センター-DBO方式で建設・運営に201億円

費用	設計・建設費	98億8千万円
	運営・維持管理費	101億円
	飛灰の処理費等	1億2千万円
合計		201億1千万円
財源	国の交付金	26億7千万円
	地方債（借金）	62億5千万円
	基金・手数料収入等	22億1千万円
	市の一般財源	89億7千万円
合計		201億1千万円

（表の事業費の内訳は税込）

## DBO方式のメリット

設計・建設と運営・維持・管理の連携を図ることができ、民間事業者の創意工夫やノウハウが設計・建設段階から生かされることにより効果的な事業の実施が期待され、トータルコストの削減が出来る。また一括発注であり、

建設費に加え運営費についても発注時に競争性を保たせることが出来ること、公共施設を所有するため公設公営方式と同様に信頼性がある。

## デメリット

運営期間中の制度や施設変更があった場合、柔軟な対応ができていく。

